

ここが知りたい！ (一般質問)

令和元年6月第2回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問 要旨

一般質問は、議員が行政全般にわたり、村長はじめ執行機関に対し、事業・事務等の執行状況や将来に対する方針などについて公に質問したり、報告・説明を求めたりできる大事な機会であり、村民から期待や関心を持たれる議員活動でもあります。

6月議会では、以下の項目について質問がありました。

なお、要旨は質問者自らでまとめたものです。



6月11日(火)	
土屋喜久夫	①経済振興策は ②観光振興はどのような方向に向くのか ③障がい者施策はどう進行しているか ④広域連携をいかに模索するか
山浦 登	①村内の道路改修について ②小学校通学路西小路中島間の県道改良工事進捗状況について ③高齢者福祉について ④憲法9条改正問題と自衛隊への名簿提出について
山本 隆樹	①樽川堤防の立木伐採等の整備について ②下高井農林高校の存続について ③スキー場地区の自治活動について (世帯128、男122人、女105人、計227人) ④耕作放棄地対策の一環「農業支援システム」構築
丸山 邦久	①人事について ②木島平村の観光について ③ファームス木島平の今後の運営について
江田 宏子	①子どもたちの“生き抜く力”を育むために ②介助が必要な方の通院対策について ③ファームス木島平の誘客・活用について ④次期の選挙に向けて検討を
6月12日(水)	
勝山 卓	①財政運営について ②通学路安全対策について ③6次産業化の推進について
山崎 栄喜	①移住定住対策の拡充について ②村の施設、関係団体等の今後について ③馬曲温泉の活性化について ④村民との懇談会の開催について
芳川 修二	①村政の基本姿勢について ②役場庁舎の建設に伴う跡地の利用計画について ③ファームス木島平の運営について
勝山 正	①荒廃地対策について ②観光ガイドについて

※一般質問部分の会議録は、村の公式ウェブサイトでご覧いただけます。

ウェブサイトのトップページの右側にある「行政一覧」の中から「木島平村議会」を選びます。

木島平村議会 ⇒ 会議録 ⇒ 一般質問 ⇒ 令和元年6月第2回木島平村議会定例会一般質問の順に進んでください。

お知らせ

◆ 請願・陳情の受付締切日

8月22日(木)

請願・陳情は早めに議会事務局に提出していただき、事務局員に内容の説明をお願いします。

◆ 9月定例会の開会予定

8月29日(木)～9月13日(金)

※ご不明な点は、お気軽に議会事務局までお願いします。

議 会

No.220



自然劇場

議会に対するご意見
をお聞かせください。

お電話の場合

☎0269-82-3111
(内線150番)

E-mailの場合

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会



土屋喜久夫 議員

1. 経済振興策は

経済的な自立のための農業の振興は、生産性の向上と、コストダウンが必要。

質問

- ① 構造改善の議論は、どこまで進んでいるか。
- ② 農業機械の貸し付けは、専業農家が優先ではないか。
- ③ 農繁期の農業ヘルパーの検討は、いつ実現できるのか。

村長

① 条件が不利な農地を土地改良し、耕作放棄対策は必要。誰が耕作するか決める必要がある。積極的に取り組みたい。

丸山産業課長

- ① 議論は進んでいない。
- ② 繁忙期に利用集中し、利用者の譲り合いで運用している。
- ③ アンケートは実施せず検討もしていない。

再質問

自動畔草刈り機などの導入のための圃場整備は必要では。

村長

水田農業は、後継者がいるが、

畑作物が難しい。経営的に成り立つ営農体系を研究したい。

再々質問

時期についての返答がない。

丸山産業課長

農業ヘルパーは、今年度中に農業委員会、農地最適化推進委員会の相談を始める。

2. 産業振興はどのような方向に向くのか

質問

- ① 商店や施設を結んだスタンプラリーがなくなった。村内商店など、一体感に近づいたが。
- ② お田植え祭がなくなった。どこに問題があるのか。
- ③ ワンストップの観光振興局の在り方に疑問がある。

村長

③ 観光振興局に、旅行業資格があり、ノウハウを積んでいきたい。

湯本産業企画室長

- ① 観光客の滞在時間を増加、村内消費を増やすため25事業者の協力で、年2回実施した。秋に実施する計画。
- ② 早乙女を撮影するカメラマンが多く、経済的なメリットが少ない。PR不足、事業展開が進んでいない状況は否めない。支援体制を充実させ、迅速に事業展開ができるようにしていく。

再質問

お田植え祭りのカメラマンの写真が村を多く露出する。経済的メリットより、木島平の知名度を上げることが、進めるべき施策ではないか。

村長

木島平米のPRは、村のPRで、結果的に村の評価につながる。

3. 障がい者施策はどう進行しているか

質問

- ① 村民の「自立」とはいかに考えるか。
- ② 村内学校と支援学校の双方に籍を置く、副学籍はいつ実現できるか。
- ③ 村民の大部分がハンディをもって生涯を閉じる。障がい、高齢との区分けは、人権的にもやめるべき。

村長

① 障がい者支援事業を総合的・計画的に進め、単に「自立」でなく、基本的な人権が尊重される事業を進める。

③ 年齢とともに誰もが体に支障が出る、法令等に基づいて業務を遂行、現行の法令は、障がい者や高齢者の範囲、障がい支援の区分が定義され、この区分に応じた行政サービスを提供する。

教育長

② 来年度から実施。「木島平村立学校における副学籍による交流及び共同学習実施要綱(案)」は、

既に作成している。

4. 広域連携をいかに模索するか

質問

① 保育園・小中学校・高校の在り方をどう考えるか。組合立木島平中学校を発足させた実績のある木島平村として。

② 事務処理の委託・共同処理等で、改善業務はないか。水道料金の検針、精算等余地はないのか。

教育長

① 学校は、自治体にとって「村づくりの拠点」でもある。保育園・小中学校の広域連携、合併模索は考えていない。

農林高校は、村、地域産業にとって、次世代を担う地域に密着した大事な学びの拠点である。「岳北地域の高校の将来像を考える協議会」も地域全体の高校の在り方を協議している。

村長

② 広域連携で、固定費用の縮減や事務事業の効率的な運用は必要。効率化が図れるものは、北信広域連合や岳北広域などでも提案していきたい。

再質問

村の特色的な発想はあるか。

教育長

小学校・中学校ともに「ふるさと教育」に非常に力を入れている。



山浦 登 議員

1. 村内の道路改修について

質問

- ① 小学校の横断歩道のラインが薄れている。小学校や保育園の近くの川に柵やグレーチング設置を。通学路の道路危険箇所に行の標示を。
- ② 各橋の歩道の段差の大きい所の補修を。
- ③ 道路の破損箇所の補修を早期に。

以上の点で、道路の安全点検はどのように行われるのか。

土屋建設課長

- ① 保育園、小学校の通学路は、小学校PTA、学校運営協議会関係団体を中心となり合同点検を実施している。確認し緊急性の高い箇所より随時対応する。
 - ② ③ 国道、県道は県の管理下にあり改良、維持補修は全て県で行っている。積極的に改良、維持補修を要望していく。
- 村道の改良工事は村で対応している。軽微な損傷や補修は対応するが、大規模な改修は区と協議し進める。

再質問

村民の軽微な要望を建設課に伝えたところ、その日の午後に対応してもらい、大変感謝されていた。

村長

村としては、できるものは速やかに対応。できない場合はその理由等を区長に連絡することが重要。村民の皆さんの信頼を得られるように進めていきたい。

2. 小学校通学路の県道改良工事進捗状況について

質問

小学校の通学路の県道改良工事進捗状況は。

村長

これまで七曲西原線は県の単独事業であり、年間1件の用地補償で期待通り進んでいないが、今年度、国の緊急対策補助金を活用したため事業が大きく進む。

土屋建設課長

今年度、西小路の交差点から小学校の方向へ50m着手、西小路交差点から水穂神社までの間は物件調査、用地補償を行い、来年度以降、西小路の交差点から工事着手の予定。

3. 高齢者福祉について

質問

私達が実施したアンケートに対し、高齢者福祉の様々な要望が寄せられた。2025年問題の超高齢社会の到来で高齢者対策は今後極めて重要と考える。どのように備え、要望に応え対応されるか。

村長

高齢者の皆さんが健康で仲良く生き甲斐をもって暮らせる村づくりを基本目標としている。村、社会福祉協議会、地域が一体となって対応して備えている。

4. 憲法9条改正問題と自衛隊への名簿提出について

質問

今国会で重要な問題となっている憲法改正と自衛隊への高齢者名簿提出について質問する。

この問題はどのように考えているか。

村長

憲法改正は国の安全保障にかかわる重要な事柄と認識している。国政問題であり個人的な考えを述べることは控えさせていただく。名簿提出については希望する条件の村民の情報を住民基本台帳から

抽出し、氏名、住所、性別、生年月日を記載した名簿を作成し、防衛省の職員が閲覧し、別の紙に手書きで書き写し、持ち帰っている。

再質問

自衛隊からの名簿提供要請に対し、いつから、どのような方法で対応されたか。情報提供にあたって本人、家族の承諾を得ているか。

村長

名簿提出が軍備増強につながることは認識していない。

武田総務課長

自衛隊適格者名簿という意味でなく、昨年の高校卒業の対象者の名簿を提出した。

再質問

52人の若者の名簿が抽出で提供された。個人情報提供を喜ぶ人は誰もいないと思う。承諾のないままに提供されたが、本人家族に今後通知する予定はあるか。

村長

義務ではないが、法令に基づき名簿提出要請に応えた。それがそのまま自衛隊の勧誘を村が勧めたという意味ではない。名簿提出についてご家族本人の同意については、改めて検討する。



山本 隆樹 議員

1. 樽川堤防の立木伐採等の整備について

質問

河川整備事業（堤防・河川内の支障木の伐採、堆積土の除去）の計画及び進捗状況は。

村長

村には樽川、馬曲川、大川の3つの一級河川と12の準用河川がある。支障木、堆積土、漏水箇所等、防災上または景観上様々な問題を抱えている。国は、水害・土砂災害から国民を守るとして、平成30年度から3か年の国土強靱化計画を閣議決定した。これにより本村でも、河川整備が大きく進展することになった。

土屋建設課長

国土強靱化事業の今年度の計画として、樽川は菜の花橋から上流に向かって、小見橋、樽川橋までの間の堆積土の除去と支障木の伐採を行う。

新橋からカントリーエレベーターまでの堤防からの漏水箇所は測量と状況調査を行う。

馬曲川は、向田橋むけたばしから上流、馬曲川橋までの間の堆積土の除去と支障木の伐採を行う。

市之割地区の大川は、県の事業として樽川との合流地点から上流に向かい、河川幅を2・5mから4mに拡張する工事を行っている。準用河川である糠千の大川は今年度と来年度の2カ年にかけて、県単河畔林整備事業を活用し河畔林の整備と支障木の伐採を行う。

2. 下高井農林高校の存続について

質問

第2次高校再編で統廃合が叫ばれている。下高井農林高校の存続についてどのように対応しようとしているのか。

村長

今回の第2次高校再編は、旧通学区ごとに協議会を設けて、将来を見据えた高校の学びの在り方と具体的な高校の配置について、9月までに県教育委員会に意見・提案を行うことになっている。県が示した実施方針の中では、旧第1通学区の飯山高校、下高井農林高校は今後の急激な少子化進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。地域キャンパス化等の方

策により、2校が連携した学びの場の構想が考えられる。

再質問

再編・地域キャンパス化についてはどのように認識されているか。

村長

キャンパス化という文言は、県が示している実施方針の中に出てきている言葉。キャンパス化は本校があり、違う分野の学びの場として他のところにキャンパスを設けるといふ認識でいる。

再々質問

飯山高校の分校になり下高井農林高校はなくなってしまう。しかしキャンパスだけは木島平村に残るといふことか。特色が異なる2校の統合は現実的ではなく、外からも生徒を呼び込める高校にして、存続できる下高井農林高校に取り組んでいただきたい。

村長

これまで下高井農林高校が果たしてきた役割は大きい。急激な少子化の現実の中で存続するには相当特徴ある学校にしていく必要がある。その場合には県というよりも周辺市町村がどれだけ関わっていかれるかという問題がある。下高井農林高校がある村として、ど

のような形で子どもたちの学びの場を確保しながら、なおかつ将来の発展に役立っていか皆さんとともに考えていきたい。

3. スキー場地区の自治活動について

質問

4月の村議会選挙に、スキー場から2名の候補者が立ち上がり抱負を語られた。村政及び移住定住の観点から貴重な意見をいただいた。村としてスキー場区への取り組みができないか。

村長

村の施策を村全体で進めていく上で自治区は必要と考えている。平成22年にスキー場地区の自治区が必要との機運が高まった時期があり、4回の懇談会を開催し組織化を図ったが、具体的にならず今日を迎えている。スキー場地区の皆さんのご意見・ご要望を聞く場を設けていくためにどのような方法があるのか、それをきつかけとして区という形に繋がっていかればと考えている。改めて検討させていただきたい。

このほか、「耕作放棄地対策の一環『農業支援システム』構築」の質問を行いました。



丸山 邦久 議員

1. 人事について

質問

村役場の人事について課長職が猫の目ごとく替わっている例がある。もう少し腰を落ち着けて仕事をを行い、係や課の改善・進歩については村民の生活の向上に寄与していただきたいと考えるが、村長の考えは。

村長

職員の人事は、適材適所を心がけている。在職年数、一定の経験を積んでいるかどうかも重要。しかし、時には職員の体調等にも考慮した人事を行っている。

再質問

村職員の異動時に引継ぎがなされていないケースが散見される。今後、引継ぎ期間を設けて引継ぎを義務付ける考えはあるか。

村長

細部について十分に引継ぎされていないということなので、改めて徹底していく。

2. 木島平村の観光について

質問

観光振興局が設置され、内外からの誘客を開始した。本格的に誘客をする前に、木島平観光(株)が運営する施設の食事の改善をするべきだと考える。今のままでは世界中に悪い評判を拡散することが危惧される。

村長

今後とも、食事に限らず、誘客の強化とともに顧客満足度を上げ、より一層サービスの向上に努めるよう私からも働きかけたい。

再質問

顧客満足度を上げると指示しても上がるものではない。

そこで、次の点を伺う。
①村長の考える顧客満足とはどういうものか。
②料理について生え抜きの社員を育てていくべきではないか。

③取締役に会社の業務に関わらない人が10人もいる。これで、本当に取締役会が機能するか。

村長

①お帰りの際に喜んでお帰りいただき、またここに来たいという気持ちになっていただくこと。
②いろんな要望に対応できるように

な体制が必要。

③商工会・スキー場関係者のご意見等も取り上げるように取締役会を構成している。

再々質問

木島平観光(株)がしっかりと実績を上げていくには、理念、すなわち会社は何を成し遂げたいのかを全社員が共通の認識として共有することが必要。社員と議論する考えは。

村長

機会あるごとに社員の皆さんと交流をしながら意見交換をし、希望を伝えていく。

第3セクターとしての役割についても社員の皆さんと共有したいと考えている。

3. ファームス木島平の今後の運営について

質問

3月議会で当時の萩原由一議員が質問されているが、遅々として進んでいない感じがしている。改めて村民合意とはどのようなものか、具体的に示していただきたい。また、村民合意の進捗状況はどうか。村長が村民合意をとりつける目標期日はいつか。

村長

村民合意とは、今ある施設を有効に使っていくこと。ただし、施設全体にいろいろ課題がある。徐々に村民の皆さんの同意を得ながら進めていきたい。

まずは、村民負担を抑えながら機能の活用を図るためにどのような利用をするのかを定め、その上で施設修繕のための村民合意を得る必要があると考えている。

現時点では、このような状況であり、村民合意のための計画づくりができていない状況。

再質問

今の答弁では、村民合意とはどういうものなのかよくわからない。どういう状態が村民合意にあたるのか、しっかりと分かるように伝えなければ職員は動けないのではないか。さらに、目標期日を明確にしないと人は動かないと思うが。

村長

多額の経費をかけて整備したものは有効に使っていく。そのために、使い方を検討し、費用をかけて整備をしていく必要がある。

その方針について合意をいただき進めていきたい。



江田 宏子 議員

1. 子どもたちの「生き抜く力」を育むために

質問

生活や遊びの変化に伴い、子どもの身体能力や脳の発達に影響が出ている。

- ① どのような力を育てたいか。
- ② おひさま保育園は「信州やまほいく」の認定園（現在、岳北地域唯一）。保護者・地域も理念の共有が大事だが、認知度・状況は。
- ③ スマホや電子機器等による身体や脳への悪影響、家庭内でのコミュニケーション不足等が指摘されている。子どもだけの問題でなく、育児中・子育て中の親への働きかけも大事。対応の状況は。

教育長

① 育てたい力は、対話・双方向のコミュニケーション力。プレゼンテーション力（自分の考えをまとめて発表）。主体的に取り組む力。対応力、柔らかな感性。自律心。一方、人との対話・チームでの作業は苦手でも、一人で創造力（文章・企画・プログラミング等）を発揮することなら自信のある子もいる。「得意分野を生業にしたいと将来設計を描いている子

どもたちへの支援体制」「限らない可能性を秘めた子どもたち個々の個性的な学び」を尊重する教育が「生き抜く力」に結びついていくと考える。

また教科書以外の活字に触れる「読書の時間」「新聞を読む習慣」の継続を小中学校に引き続き働きかけたい。

② 外遊びが充実するよう保護者会で遊具を作って、設置していただいたことは、（保護者への）認知度アップにつながっている。

また、県保育大会（今秋木島平で開催）でのおひさま保育園のレポート発表もPRの良い機会。

③ 保育園から保護者への具体的なメッセージ、小中学校の学級通信などで機会あるごとに啓発したい。

2. 介助が必要な方の通院対策について

質問

デマンドバスが対応していない範囲（地域）の通院は、金銭的負担が大きい。支援策は。

村長

村社会福祉協議会（以下「社協」）の車椅子移送用車両（リフト付車）の貸出しが可能。対象者の条件は身体障害や高齢、怪我等で歩行困難な方。利用は無料だが、燃料費は走行1kmあたり20円。社協の会費納付が条件。

運転は、家族、親戚、知り合いのほか、社協に登録の運転ボランティアによる対応も可能。病院内の診察介助も、運転ボランティアにお願ひできる場合もあり、社協に相談を。

3. ファームス木島平の誘客・活用について

質問

マルシェホール（案内所側）の活用に関する次の提案に対する見解は。

- ① 近隣住民の誘客にもつながる可能性もある「子どもの遊び場やトレーニング機器」等の設置。
- ② 暑さ寒さ対策も兼ね「温度管理できる収穫体験スペース」の設置。体験料を維持管理費に充当。

① 交流ホールは、今年度、空調設備工事を予定し、キッズスペース（カフェ隣）は、夏も冬も快適に利用できるよう準備を進めている。

湯本産業企画室長

マルシェホールは、ボルダリング等の提案もあり、利活用検討委員会等、今までいただいた意見も踏まえ、屋根改修の検討と併せて検討を進めていく。

② いちご栽培、プランター栽培、水耕栽培などが想定されるが、屋内なので、作る作物や照明設備等の問題もある。可能かどうか、誰がやるかも併せて検討したい。

4. 次期の選挙に向けて検討を

質問

① 「合同個人演説会」は、全国的にも貴重な取り組み。公職選挙法では「演説会の告知ができるのは候補者のみ。開催チラシの配布やポスター掲示も禁止」。また「演説会の放映は、候補が一人でも欠けた場合は放映できない」とされたが、村独自で、これらの制限を克服するための手段は検討できないか。

② 「選挙運動の禁止事項」は候補者と有権者の認識にギャップがある。有権者にも周知できないか。

③ 「投票所の統合」についての考えは。

武田選挙管理員会書記長

① 「演説会開催の告知」は新聞等の記事で周知する方法がある。報道機関とも検討したい。「演説会の放映」は、基本事項として「全候補者の考えを全有権者に平等に伝える機会」と捉えており、一部削除、またはそのようなことが生じる場合は、基本事項に値しないため放映できない。

② 7月の国政選挙から周知したい。（選挙運動期間が短い場合も）期間中に限らず、事前に周知を図りたい。

③ 村には有権者が700人を超える投票所もあれば、70数人の投票所もある。投票しにくい状況を作らないための方法も検討しながら、小さな投票所の統合も考えなければいけないと考えている。



勝山 卓 議員

1. 財政運営について

質問

「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」「上下水道経営戦略」「公共施設等総合管理計画」「観光施設事業経営戦略」が公表されているが、急激な人口減少が進む中、公共施設の維持管理等には多額の財政負担が必要。その負担に村は耐えられるのか。不断の改革に取り組み、財源確保の見通しをたてた財政運営が必要。道路改良工事の地元負担金や、上下水道料金の見直しを検討されているが、人口減少という難題の中で、村もダウンサイジングを含めた適正規模による行政運営に取り組む必要がある。具体的な政策への積極性が問われると思うが見解は。

村長

多くの公共施設等が更新時期を迎え、財政運営に大きな負担となる。全ての施設の維持は困難。毎年実施計画の見直しを行い、現実的な財政計画のもとに作業を進めている。有利な起債を利用して事業を進め、基金残高を見ながら地方債の繰上償還を考えている。

本年は前期「第6次総合振興計画」「まち・ひと・しごと総合戦略」の最終年度。事業を見直し、実現できる実施計画を作る必要がある。財政的な裏付けのもと進める。

2. 通学路安全対策について

質問

- ① 西小路地区から中島地区までの県道改良整備事業について、村は一刻も早い完成に向け、どのような対策を講じられてきたか。
- ② 西小路工区は昨年度用地交渉を終了し、本年度西交差点から水穂神社に向けて物件調査・用地交渉を行い、来年度から工事着手との計画だが、水穂神社から平和橋の交差点までの計画、工事の完成目標年度は。
- ③ 設立された木島平村県道改良整備促進協議会の今後の取り組みは。
- ④ 通学路の緊急安全点検（防犯・危険箇所）の内容と対策は。

土屋建設課長

- ① 県が実施する説明会や用地補償への立会い等、事業に協力し、県へ事業要望書を提出。さまざま機会を通じて早期着工・早期竣工に向けて要望してきた。
- ② 計画は出されていない。工事完成目標年度は、確定していない。
- ③ 本協議会とともに、早期着工、早期竣工を県へ強く要望していく。

教育長

- ④ 園児の安全確保、児童・生徒には、登下校中の不審者対策を徹底した。今後も、危険箇所の情報共有と環境の整備・改善が重要。不審者情報についても共有と迅速な対応、「村民総ぐるみの見守り隊」として地域住民全体で協力・連携することが大変大事であり、協力をお願いしたい。
- ブロック塀は、自宅のブロック塀の安全点検のお願いをすると共に、現地確認を行い、「安全性不適合ブロック塀所有者」には直接改善の要望をしていく。

再質問

- ① 西交差点から水穂神社までの物件調査、用地交渉について、全額予算化されたのか。
- ② 西小路工区の「昨年度用地補償を終了」とはどういうことか。
- ③ 子どもの防犯対策のひとつ「地域の安全マップ」作りはどうか。
- ④ ブロック塀点検未実施地域の今後の計画は。
- ⑤ ブロック塀の改修・撤去の補助事業制度の検討は。

土屋建設課長

- ① 目標として考えている。
- ② 一旦ここで用地補償を終了。
- ⑤ 「住宅建設物安全ストック形成事業」は、強制力の強い事業で、今すぐに対応できない。

教育長

- ③ 検討していければと考えている。
- ④ 早々に関係機関を交え、対策について進捗するよう図る。

山崎子育て支援課長

3. 6次産業化の推進について

質問

農を基軸とした村づくりの政策を推進する中で、6次産業化推進事業が停滞状況であることは、誠に残念極まりない。「6次産業化地産地消推進戦略」の成果目標達成に向け、これからの取り組みは。

村長

農産物の高付加価値化や地域農業・農村の振興には欠かせないものと認識している。活動が停滞していることは、大変申し訳なく思っている。現在、協議会の再開に向けて準備を進めている。

再質問

この推進戦略に挙げられている内容は、6次産業化を進める上での事業戦略として必須のもので、協議会の果たす本来の役割はここにあると思うが、見解は。

湯本産業企画室長

村全体の事業者が所得向上に向けて活動ができるように支援を考えており、具体的に事業を進めるには、どういう事業を行ったら良いのか検証し進めたい。



山崎 栄喜 議員

1. 移住定住対策の拡充について

質問

木島平村が誕生して64年。人口は半減し、人口減少・少子高齢化に歯止めがかからない。

飯山市は、今年度住宅を25戸建設し、移住定住対策の予算は前年度当初比2・7倍と積極的。

魅力的な施策を総合的かつ思い切って展開する必要がある。

- ① 飯山市の取り組みに対する見解は。
- ② 若者定住家賃補助金の交付期間の延長と所得に心じた家賃体系に。
- ③ 若者が住宅を新築等した場合の補助を。
- ④ 鹿児島県徳之島伊仙町では子育て支援金を交付している。村でも制度を設けてはどうか。
- ⑤ 普通交付税は人口も加味され、人口が増えれば普通交付税も増える。それを財源に施策の積極的な展開を。交付税は一人当たりいくらか。

村長

- ① 飯山市の事例は参考にしたい。
- ② ④ ⑤ 人口の奪い合いではなく、相互に発展していく取り組み

が必要。

土屋建設課長

- ② 家賃補助金の年齢制限や交付期間は今後検討。国の社会資本整備総合交付金の補助事業が財源の住宅は、法律で家賃体系を変えられない。

- ③ 住まいづくり促進事業補助金交付要綱により、条件はあるが補助金を交付している。

竹原民生課長

- ④ 子育て支援金は、今後、効果を注視していきたい。

武田総務課長

- ⑤ 普通交付税は、一人当たり21万5千円。

2. 村の施設、関係団体等の今後について

質問

村は、役場庁舎や学校のほか、スキー場、やまびこの丘公園、馬曲温泉、ジャンプ競技場、有機(堆肥)センター、ファームス木島平等など多くの施設を保有している。

また、農業振興公社や観光振興局など関係団体を多く抱えている。各施設や団体の運営のために、委託料や補助金、備品購入費、修繕費など多額の支出をしている。

- ① このまま各施設を維持していく

ことが可能か。また、維持していくことが良いことなのか。

村も村民も考える必要がある。

- ② 村の他の事業に影響はあるか。
- ③ 検討委員会等を設け、検証・評価を行い、事業の見直しを含めて検討する必要がある。

村長

- ① 平成29年3月に公共施設等総合管理計画を策定。現在ある全ての公共施設を保有し続けた場合に掛かる更新費用の総額は、今後40年間で約192億4千万円。一年当たり4億8千万円と試算。今後の財政運営上、全てを更新することは困難。

- ③ 村民のご意見をお聞きする場面を作りたい。今後、各施設個別の維持管理計画を作る予定。

再質問

個別計画の策定はいつまでか。

村長

令和2年に計画を立てたい。

3. 馬曲温泉の活性化について

質問

湯量が開設当時の3分の1、利用者もピーク時の4分の1に減っている。また、村は昨年新源泉の調査を行った。

- ① 新源泉の調査結果は。
- ② 調査結果が有望なら、思い切った発掘したらどうか。

③ 施設のリニューアルや魅力アップに向けて、アンケートの実施や検討委員会の設置を。

丸山産業課長

- ① ③ 第2駐車場付近に現在の源泉と同じ泉脈がある。深さは800mから1600mの区間と推定。実際の期待できる湯量等は不明。1500m掘削した場合、概算で1億8千万円程度掛かる。掘削以外にも多くの費用が必要なので慎重に検討する。

再質問

自噴の可能性はあるか。

丸山産業課長

掘らないとわからない。

4. 村民との懇談会の開催について

質問

村は、各区の要望に応じて地区づくり懇談会を行っている。近年は開催する区が減っていると聞く。村に意見や要望を伝えたいと思っても、区が開催しないとかなかその機会がない。懇談会は、村にとって大切な広報公聴の機会であり、責務である。

- ① 全村1箇所でも良いから、村主催で若者等と懇談する機会を。

村長

- ① 多くの皆さんが集まって要望だ



芳川 修二 議員

1. 村政の基本姿勢について

質問

村長就任後、多くの事業が廃止された。村長が替われば政策も変わるが、村発展のために、これからの4年間、どのようなビジョンを描き、どのような施策を進めていくのか。

村長

時代の変化、財政状況等で見直しも必要。保育料の負担軽減や子ども医療費の公費負担、婚活事業、学習支援、コンピュータ化を進めている。子育てや日々の暮らし、仕事、健康・福祉、全ての事柄の充実度を高めていくことが村の魅力となり、移住定住に繋がっていくと考え取り組む。雇用を作る、新しい人の流れを作る、未来を拓く。その3本の柱による政策を重点的に実施している。

再質問

金婚喜寿の祝賀行事は廃止してはならない大事な行事。運動会も、村としての一体感と集落内の絆を強める大切な機会。意義が半減してしまふ。どんな検証で判断したのか。

村長

金婚喜寿は、民生委員の意見や近

隣市町村の状況等も参考にしながら決めてきた。運動会については、参加者が減少しており、体育指導委員会、参加者や参加団体が増える方法を検討した結果と聞いている。

再々質問

人口推計では村が消滅するのではないかと危惧される。時代に流されるだけでは、発展や持続も考えられない。国も地方創生を基に地方自治体を応援する制度を整えている。村長が先頭に立ち、熱意を持って村づくりに取り組んでもらいたい。

村長

地方創生の総合戦略、過疎は継続されると推測している。改めて次の対策をしっかりと検討して皆さんとともに頑張りたい。

2. 役場庁舎の建設に伴う跡地の利用計画について

質問

行政報告で、「現庁舎の跡地利用を含めた周辺全体の設計段階に入れるよう具体的に進める」とあった。村民会館が必要ないかのように議論が進んでいる。

穂高・往郷地区の多くの皆さんから不満の声を聴いている。村の発展のためにも村民会館の機能は、役場周辺に必要なかと考える。

村長

国で公共施設等適正管理事業債と

いう後押しもあり、財源を確保しながら工事を進めている。

箱モノを増やすことは難しい。若者センターが近くにあるので、それらの機能強化等も検討する。

再質問

村民が必要だと要望したものであり、それに応えるのが行政。庁舎を先に造るにしても、隣接する場所に村民センターを作ることでも考慮した跡地計画の策定を要望する。

平成22年に過疎債が使えるようになってから村の財政は劇的に改善している。消極的な考えでは、いつかは合併となってしまうのでは。

村長

村の財政指標は、悪いものはないが、起債制限比率は県下でも上位。この上昇を抑えなければならぬ。新たな取り組みに足を踏み出せない状況。村民の要望にできるだけ応える方法を探りたい。

3. ファームス木島平の運営について

質問

ファームス木島平は、農の拠点施設として農業の6次産業化を進めるための施設として計画した。

加工設備の活用を含めた施設経営をし、地域経済の拠点となるべき施設。やる気と能力のある者に任せる、指定管理制度にすべきと考える。

村長

村が直接管理をして施設を改修する方が良いだろうと考えた。大きな施設であり指定管理は難しい。

再質問

ファームス木島平は、専門家の知恵とアイデアを結集しての施設計画であった。今の状態では多くの来客を望むのは無理だと感じた。

今後、やる気と力を蓄えた事業者が指定管理で行う方が良いのでは。

村長

指定管理期間中、加工施設は十分に活用されておらず、農産物直売所も、近くに直売所「たる川」があり商品が重ならないようにと考えている。全て一括の指定管理は難しい。

再々質問

指定管理費が3年間で810万円削られた。農村木島平が運営していた最初の27年度の集客人員は17万3千人。28年度には14万9千人。29年度は10万人。当初どおりの指定管理費なら、次の3年間の指定管理費を大きく削減できたと考える。

指定管理、施設の改修をどのような見通しでいつ頃までにと考えているのか。

村長

いつまでというのは現時点では判断ができない。施設を活用していくために、どういう方法が良いか、また議論を進めていきたい。



勝山 正 議員

1. 荒廃地対策について

質問

過疎化と高齢化により労働力の低下が進行するとともに、農業の生産力が低下、生産額の停滞と遊休農地の増加が懸念される。遊休農地の解消や発生防止、担い手への農地利用の集積・集約化が必要とされ、水田は一定の成果を見たが、面積の小さい水田では後継者もなく、耕作に苦慮、荒廃地になっている現況である。

中山間地域は、電気柵等の設置が進み、有害鳥獣の被害が減少したものの、解消には至っていない。高齢化や後継者不足のほか、耕作面積が小さいため、担い手農家への集積が進まず荒廃地になっている。

①これらの土地は、農業振興公社によるそばや大豆の栽培を行っているが、生産性はどうか。

②土地の流動化についてアンケート調査を実施されたが、その結果は。今後、農地適地適作による農地の集団化や流動化をどう進めていくのか。

村長

集落全体での電気柵の設置等を推進し、有害鳥獣対策を図りたい。

丸山産業課長

①生産性は、良い結果ではなかった。土壌条件や施肥管理状況、生育管理方法などの分析を行い、生産性の向上に向けて取り組んでいる。そばやそば粉の付加価値をつけ販売することで収益を高めていくよう努力していく。

②アンケートは、平成26年度に実施。人口減少や高齢化による人と農地の問題を解決していくため、「人・農地プラン」策定基礎資料として実施した。円滑に流動化を進めるための現状調査であるが、計画当時とは状況が変化している農家もある。木島平村に限らず、全県的に見直し等に向けて取り組みの準備に入っている。

「人・農地プラン」の運用には課題も多いのが現状。流動化への取り組みは、農業振興公社が農地利用集積円滑化団体として利用権の設定をするなど進めてきたが、農地中間管理事業として長野県農業開発公社と連携を強化しながら進めることになる。

再質問

「人・農地プラン」の課題とは。職員が少ない中での対応は大変なことと思うが、早め早めに取り組

むことが大切。

丸山産業課長

担い手へ集積を進めるための話し合いや相談をすることが実際にはかなり難しい。これらを行なうとする場合、双方が積極的に進める必要があるが、各種人的支援が必要になる。行政としては、限られた人数で限界があるため、今は、関係者の皆さまにご理解とご協力をいただき、「人・農地プラン」を含めて、流動化、集積に向けての話し合いを進めたい。

2. 観光ガイドについて

質問

今年も信越自然郷飯山駅観光案内所が窓口となり、カヤの平高原・秋山郷シャトル便の運行が始まった。

①春山トレッキング、カヤの平高原のトレッキングなどを催し、地元ガイドが案内する案内ガイドは組織化を図りながら対応するとされているが、その後の対応はどうか。

②自転車活用推進法が成立し、国を挙げてのサイクリング観光を後押しする仕組みが整いつつある。今後、カヤの平高原に限らず、案内ガイド育成と共にシャトル便を活用したサイクリング観光に向けての考えは。

丸山産業課長

①村の社会教育団体として登録されている「木島平自然学校」の方へお願いする。村内外10名の村の自然に詳しい方で構成され、既にガイドとしても活躍されている。

②サイクリング観光は村単独で出来るものではなく、広域観光の中で、近隣市町村と連携しながら積極的に取り組みたい。

再質問

村内にも自然についての知識を持つている方が大勢いる。この方たちとの連携はどのようにしていくのか。

丸山産業課長

今年度「木島平自然学校」の方へお願いする形で計画。これは、オプションメニューが決定した段階で代表者へお願いし、ガイドの選任をいただく計画。木島平の自然を中心に紹介するようなメニューを構成。

また、村内の方との連携については、今後、ご意見や情報をいただき、多くの方にガイド、事業に参加いただけるよう、環境を検討していきたい。村の豊かな自然を多くの皆様に紹介するために、関係者の力をお借りしながら、人材育成に取り組みしていきたい。